

# 学生が創る子どもの居場所 ～地域に根差した支援活動を目指して～

団体名 ● 食☆活(子ども支援活動) / 代表者名 ● 柄崎七星(経済学部経済学科3年)

## はじめに

『食☆活』は「地域に根差した支援活動」、「子ども食堂の実施」を目標に発足した、学生が自ら運営や実施を行うボランティア団体である。

## 活動内容

### 1. 非行少年立ち直り支援

石川県警少年サポートセンターとの連携のもと、学習支援・農業体験・非行防止教室の動画作成などを行った。活動を通して少年たちとの信頼関係の構築を図った。

### 2. 少年院における学習支援

石川県 BBS 連盟と連携し、高卒認定試験合格を目指す少年院生に学習指導を行った。少年たちの将来の夢を叶えるための手助けができる活動であった。

### 3. 外部団体による子ども食堂への参加

金沢市内の「Smileykitchen ごはん」と、小坂地区社会福祉協議会による「キッチンこさか」にボランティアとして参加し、調理補助や子どもたちとの交流などを行った。参加者との信頼関係が築かれている様子が見て取れ、『食☆活』が目指すべきビジョンが見えたように思われた。

### 4. 『食☆活』主催の活動

今年度は子ども食堂を2022年7月9日(土)と同年12月11日(日)の2回開催した。7月は金沢星稜大学女子短期大学部の手塚ゼミと協力し手作り弁当を、12月は金沢星稜大学内の食堂「サ・エ・ラ」とタイアップした弁当を提供した。どちらの回も食事提供に加え季節に合わせたイベントを実施し、参加者と学生、お互いに笑顔が見られるなど楽しい時間を過ごすことができた。

新企画として、同年10月31日(月)～11月2日(水)の3日間にわたり、学内でフードドライブを行った。集まった食品はいしかわフードバンク・ネットへと寄付し、必要とする人々へ届けられる。

## 成果、結果の考察

貧困家庭支援や少年の居場所づくりなどを通して



参加者との交流や寄付品飲料の配布

地域の発展に貢献できたと同時に、そのアイデアや活動が評価され、M-BIPにてオーディエンス賞を受賞したほか、更生保護活動に対して金沢保護観察所長感謝状をいただいた。さらに、昨年度に比べ活動規模が拡大したことで、人々の抱える問題の可視化へとつながった。また、子ども食堂等への参加者が増加し、物資や寄付をいただく機会もあったことから、徐々に『食☆活』の活動が周知され始めていると言えるのではないだろうか。

## 今後の課題、展望

活動拡大に伴う運営面での学生の負担が増大することが懸念されるためその対応策が必要となる一方で、より地域や参加者のニーズに合った活動の展開が今後団体として求められるだろう。そして、大学の取り組みに留まらず、地域で子どもを支え育てることを可能にする体制構築のために、来年度は企業との連携を進めるとともに、団体構成員募集活動ならびに『食☆活』独自のボランティア企画開催を強化し、継続的に活動していきたい。



子ども食堂実施時の集合写真